

開講年度	2025	開講学期	☒ 前期	☒ 後期	☐ 通期
授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実験・実習・実技				
科目名	基礎理論				
実務経験 教員					
必須選択	☒ 必須 ☐ 選択 ☐ 必須選択				
授業時間	前期 56 時間／後期 28 時間 (状況よりオンラインと対面の併用形式)				
対象学年	電子科2年				
到達目標	電気に関する基礎的な知識、計算能力と理論と応用を学び、実際に活用する能力を育てる。				
授業内容	①直流回路 電流・電圧・抵抗 オームの法則 抵抗回路 電流の作用 ②磁気 磁力の性質と働き 誘導インダクタンス ③静電気 電解の性質 コンデンサ ④交流回路 基本回路とその性質 直列回路の計算				
評価方法	①学期末の定期試験 ②学科目ごとに100点満点とし、60点以上を合格とする。 ③出席率 ④授業態度 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める。				
その他	80%以上の出席必要				

開講年度	2025	開講学期	☒ 前期 ☐ 後期 ☐ 通期
授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実験・実習・実技		
科目名	電気回路		
実務経験 教員			
必須選択	☒ 必須 ☐ 選択 ☐ 必須選択		
授業時間	前期 56 時間／後期 時間 (状況よりオンラインと対面の併用形式)		
対象学年	電子科2年		
到達目標	電気回路における公式を理解し計算方法について理解する。		
授業内容	①原子の構造 ②半導体の性質 ③トランジスタ回路 ④ダイオード回路 ⑤各種半導体素子 ⑥電界効果トランジスタ ⑦半導体集積回路 ⑧2進数・10進数・16進数 ⑨ベン図・論理回路 ⑩フリップフロップ		
評価方法	①学期末の定期試験 ②学科目ごとに100点満点とし、60点以上を合格とする。 ③出席率 ④授業態度 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める。		
その他	80%以上の出席必要		

開講年度	2025	開講学期	☒ 前期	☐ 後期	☐ 通期
授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実験・実習・実技				
科目名	電気通信の基礎				
実務経験 教員					
必須選択	☒ 必須 ☐ 選択 ☐ 必須選択				
授業時間	前期 28	時間／後期	時間	(状況よりオンラインと対面の併用形式)	
対象学年	電子科2年				
到達目標	電気通信回線についての伝送理論を理解し、デジタル伝送路の伝送技術について理解する。				
授業内容	①電気通信回線の伝送量 ②伝送量の計算 ③電気通信回線の電気特性 ④反射 ⑤漏話 ⑥ひずみ、雑音、反響、SN比 ⑦デジタル変調方式 ⑧多元接続方式・多重アクセス制御方式 ⑨PCM 伝送 ⑩光ファイバ通信				
評価方法	①学期末の定期試験 ②学科目ごとに 100 点満点とし、60 点以上を合格とする。 ③出席率 ④授業態度 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める。				
その他	80%以上の出席必要				

開講年度	2025	開講学期	☒ 前期	☐ 後期	☐ 通期
授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実験・実習・実技				
科目名	端末技術				
実務経験 教員					
必須選択	☒ 必須 ☐ 選択 ☐ 必須選択				
授業時間	前期 56	時間／後期	時間	(状況よりオンラインと対面の併用形式)	
対象学年	電子科2年				
到達目標	ブロードバンドネットワークで用いられている各種端末設備・機器の機能について理解する				
授業内容	①ADSL モデム、スプリッタ ②IP 電話システムにおける各種端末 ③LAN の概要 ④LAN の伝送媒体 ⑤イーサネット LAN ⑥無線 LAN ⑦LAN の媒体アクセス制御方式 ⑧集線装置 ⑨LAN 間接続装置 ⑩雷害・電磁障害対策				
評価方法	①学期末の定期試験 ②学科目ごとに 100 点満点とし、60 点以上を合格とする。 ③出席率 ④授業態度 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める。				
その他	80%以上の出席必要				

開講年度	2025	開講学期	☒ 前期	☐ 後期	☐ 通期
授業方法	☒ 講義 ☒ 演習 ☐ 実験・実習・実技				
科目名	接続工事技術				
実務経験 教員					
必須選択	☒ 必須 ☐ 選択 ☐ 必須選択				
授業時間	前期 56	時間／後期	時間	(状況よりオンラインと対面の併用形式)	
対象学年	電子科2年				
到達目標	ブロードバンド回線の工事を行うにあたっての各種配線材料、配線工法、工事試験、施工上の設計・安全管理について学習する。				
授業内容	①メタリックケーブルを用いた LAN の配線工事 ②光ファイバケーブルを用いた LAN の配線工事 ③構内情報配線システム ④情報配線システムのフィールドテスト ⑤コマンド等による LAN の工事試験 ⑥IP ボタン電話装置 ⑦施工管理技術				
評価方法	①学期末の定期試験 ②学科目ごとに 100 点満点とし、60 点以上を合格とする。 ③出席率 ④授業態度 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める。				
その他	80%以上の出席必要				

開講年度	2025	開講学期	☒ 前期	☐ 後期	☐ 通期
授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実験・実習・実技				
科目名	情報セキュリティ				
実務経験 教員					
必須選択	☒ 必須 ☐ 選択 ☐ 必須選択				
授業時間	前期 56	時間／後期	時間	(状況よりオンラインと対面の併用形式)	
対象学年	電子科2年				
到達目標	セキュリティに対する考え方、認証技術、攻撃の種別とその対策、運営管理上の技術について理解する。				
授業内容	①情報システムに対する脅威 ②暗号化技術 ③電子認証、PKI、デジタル署名 ④端末設備とネットワークセキュリティ ⑤情報セキュリティ管理				
評価方法	①学期末の定期試験 ②学科目ごとに100点満点とし、60点以上を合格とする。 ③出席率 ④授業態度 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める。				
その他	80%以上の出席必要				

開講年度	2025	開講学期	☒ 前期	☐ 後期	☐ 通期
授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実験・実習・実技				
科目名	ネットワーク技術				
実務経験 教員					
必須選択	☒ 必須 ☐ 選択 ☐ 必須選択				
授業時間	前期 56	時間／後期	時間	(状況よりオンラインと対面の併用形式)	
対象学年	電子科2年				
到達目標	TCP/IPの基礎やVoIP, アクセス技術等について理解する。				
授業内容	①通信方式と伝送方式 ②デジタル伝送路符号方式 ③IPネットワークの概要 ④IPアドレス ⑤ネットワーク管理コマンド ⑥VoIP ⑦HDLC、ATM ⑧広域イーサネット、IP-VPN ⑨ブロードバンドアクセスの技術				
評価方法	①学期末の定期試験 ②学科目ごとに100点満点とし、60点以上を合格とする。 ③出席率 ④授業態度 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める。				
その他	80%以上の出席必要				

開講年度	2025	開講学期	☒ 前期 ☐ 後期 ☐ 通期
授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実験・実習・実技		
科目名	通信法規		
実務経験 教員			
必須選択	☒ 必須 ☐ 選択 ☐ 必須選択		
授業時間	前期 28 時間／後期 時間 (状況よりオンラインと対面の併用形式)		
対象学年	電子科2年		
到達目標	法の目的、用語の定義など電気通信回線設備に端末設備等を接続するため法規について学習する。		
授業内容	①電気通信事業法 ②工事担任者規則 ③技術基準適合認定等規則 ④端末設備等規則 ⑤有線電気通信法、有線電気通信設備令 ⑥不正アクセス禁止法、電子署名法		
評価方法	①学期末の定期試験 ②学科目ごとに100点満点とし、60点以上を合格とする。 ③出席率 ④授業態度 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める。		
その他	80%以上の出席必要		

開講年度	2025	開講学期	☒ 前期 ☐ 後期 ☐ 通期
授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実験・実習・実技		
科目名	電気数学		
実務経験 教員			
必須選択	☒ 必須 ☐ 選択 ☐ 必須選択		
授業時間	前期 28 時間／後期 時間 (状況よりオンラインと対面の併用形式)		
対象学年	電子科2年		
到達目標	電気回路を理解する上で必要となる数学の基礎を理解し、計算力・法則などを身につける。		
授業内容	電気数学 ① 数とその計算 ② 文字式とその計算 ③ 方程式と不等式 ④ 関数とグラフ ⑤ 三角関数 ⑥ ベクトル		
評価方法	①学期末の定期試験 ②学科目ごとに100点満点とし、60点以上を合格とする。 ③出席率 ④授業態度 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める。		
その他	80%以上の出席必要		

開講年度	2025	開講学期	☒ 前期 ☐ 後期 ☐ 通期
授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実験・実習・実技		
科目名	物理学		
実務経験 教員			
必須選択	☒ 必須 ☐ 選択 ☐ 必須選択		
授業時間	前期 28 時間／後期 時間 (状況よりオンラインと対面の併用形式)		
対象学年	電子科2年		
到達目標	無線通信を行うために必要な電波の性質や電気回路、送受信装置、空中線、測定方法について理解する。		
授業内容	無線工学 ① 電気の基礎 ② 電子回路 ③ 送受信装置 ④ レーダ ⑤ 空中線系 ⑥ 電波の伝搬 ⑦ 電源 ⑧ 測定		
評価方法	①学期末の定期試験 ②学科目ごとに100点満点とし、60点以上を合格とする。 ③出席率 ④授業態度 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める。		
その他	80%以上の出席必要		

開講年度	2025	開講学期	☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通期		
授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実験・実習・実技				
科目名	配電理論				
実務経験 教員					
必須選択	☒ 必須 ☐ 選択 ☐ 必須選択				
授業時間	前期	時間／後期	14	時間	(状況よりオンラインと対面の併用形式)
対象学年	電子科2年				
到達目標	屋内幹線や分岐回路の設計について理解し、配線図の読み方、書き方について学習する。				
授業内容	①屋内配線の理論 配線に使用される電気 電気方式・配電方式 屋内配線の対地電圧 電線の太さの決め方 引込線及び引込口配線 開閉器・過電流保護・接地保護・接地 ②配線設計 引込口配線の設計 幹線の設計				
評価方法	①学期末の定期試験 ②学科目ごとに100点満点とし、60点以上を合格とする。 ③出席率 ④授業態度 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める。				
その他	80%以上の出席必要				

開講年度	2025	開講学期	☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通期
授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実験・実習・実技		
科目名	電気機器		
実務経験 教員	20年以上業務で電気工事实務経験のある教員が担当。第1種電気工事士免状を保持している者が担当。		
必須選択	☒ 必須 ☐ 選択 ☐ 必須選択		
授業時間	前期 時間／後期 28 時間 (状況よりオンラインと対面の併用形式)		
対象学年	電子科2年		
到達目標	電気機器の原理・構造・機能などを学び、その用途、使い方、特徴などを理解する。		
授業内容	電気機器 ①電気用品一般 ②電線 ③がいしとがいし管 ④テープ類 ⑤電線管類 ⑥線びおよびダクト ⑦配線器具 ⑧白熱灯器具 ⑨蛍光灯器具 ⑩特殊な光源の器具 ⑪家庭用電気器具 ⑫分電盤・配電盤		
評価方法	①学期末の定期試験 ②学科目ごとに100点満点とし、60点以上を合格とする。 ③出席率 ④授業態度 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める。		
その他	80%以上の出席必要		

開講年度	2025	開講学期	☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通期
授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実験・実習・実技		
科目名	配線図		
実務経験 教員			
必須選択	☒ 必須 ☐ 選択 ☐ 必須選択		
授業時間	前期 時間／後期 28 時間 (状況よりオンラインと対面の併用形式)		
対象学年	電子科2年		
到達目標	建物の平面図に書く配線図、電気の図記号について学習する		
授業内容	部品・機器の用途と図記号について ①スイッチ ②コンセント ③開閉器・遮断器 ④照明器具 ⑤機器・計器 ⑥配線・ケーブル・電線管 ⑦その他		
評価方法	①学期末の定期試験 ②学科目ごとに100点満点とし、60点以上を合格とする。 ③出席率 ④授業態度 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める。		
その他	80%以上の出席必要		

開講年度	2025	開講学期	☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通期
授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実験・実習・実技		
科目名	電気工事实習		
実務経験 教員	20年以上業務で電気工事实務経験のある教員が担当。第1種電気工事士免状を保持している者が担当。		
必須選択	☒ 必須 ☐ 選択 ☐ 必須選択		
授業時間	前期	時間／後期	56 時間 (状況よりオンラインと対面の併用形式)
対象学年	電子科2年		
到達目標	基本的な電気工事回路を理解し、確実に作成を行う。		
授業内容	単位作業 ①コンセント回路 ②電灯・スイッチ回路 ③電灯・コンセント回路 ④パイロットランプ回路 ⑤3路スイッチ回路 ⑥4路スイッチ回路 ⑦自動点滅器 ⑧タイムスイッチ 等を使用した複合回路の作製		
評価方法	①課題の作製 ②学科目ごとに100点満点とし、60点以上を合格とする。 ③出席率 ④授業態度 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める。		
その他	80%以上の出席必要		

開講年度	2025	開講学期	☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通期
授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実験・実習・実技		
科目名	基本実習		
実務経験 教員	20年以上業務で電気工事実務経験のある教員が担当。第1種電気工事士免状を保持している者が担当。		
必須選択	☒ 必須 ☐ 選択 ☐ 必須選択		
授業時間	前期 時間／後期 56 時間 (状況よりオンラインと対面の併用形式)		
対象学年	電子科2年		
到達目標	国家試験電気工事士試験公表問題の回路を理解し、確実に作成を行う。		
授業内容	第二種電気工事士技能試験公表問題 製作手順の説明・製作 第一種電気工事士技能試験公表問題 製作手順の説明・製作		
評価方法	①課題の作製 ②学科目ごとに100点満点とし、60点以上を合格とする。 ③出席率 ④授業態度 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める。		
その他	80%以上の出席必要		

開講年度	2025	開講学期	☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通期
授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実験・実習・実技		
科目名	応用実習		
実務経験 教員	20年以上業務で電気工事实務経験のある教員が担当。第1種電気工事士免状を保持している者が担当。		
必須選択	☒ 必須 ☐ 選択 ☐ 必須選択		
授業時間	前期	時間／後期	56 時間 (状況よりオンラインと対面の併用形式)
対象学年	電子科2年		
到達目標	基本的な技術を身に着け、電気回路の配線や電気機器の作成を行う。		
授業内容	電気回路の作成 電気・電子部品 はんだ付け 電気配線・取付 電動工具の使い方 ネジや付随する部品 組み立て作業 を使用した複合回路の作製		
評価方法	①課題の作製 ②学科目ごとに100点満点とし、60点以上を合格とする。 ③出席率 ④授業態度 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める。		
その他	80%以上の出席必要		

開講年度	2025	開講学期	☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通期
授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実験・実習・実技		
科目名	電気実習		
実務経験 教員	20年以上業務で電気工事実務経験のある教員が担当。第1種電気工事士免状を保持している者が担当。		
必須選択	☒ 必須 ☐ 選択 ☐ 必須選択		
授業時間	前期	時間／後期	56 時間 (状況よりオンラインと対面の併用形式)
対象学年	電子科2年		
到達目標	電気製図についての技術・知識を身に着ける。電気設備の配線方法や製図の基礎について学習する		
授業内容	電気回路図の作製 ①屋内配線図(平屋) ②屋内配線図(2階建て) ③機械図面の読み方・描き方		
評価方法	①課題の作製 ②学科目ごとに100点満点とし、60点以上を合格とする。 ③出席率 ④授業態度 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める。		
その他	80%以上の出席必要		

開講年度	2025	開講学期	☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通期
授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実験・実習・実技		
科目名	測定実習		
実務経験 教員	20年以上業務で電気工事实務経験のある教員が担当。第1種電気工事士免状を保持している者が担当。		
必須選択	☒ 必須 ☐ 選択 ☐ 必須選択		
授業時間	前期	時間／後期	56 時間 (状況よりオンラインと対面の併用形式)
対象学年	電子科2年		
到達目標	電気に関する実験・測定器・各種機器について理解を深め、取り扱い方法を学ぶことを目的とする。		
授業内容	各種計器による測定・使用方法・レポート作成 ①照度計 ②絶縁抵抗計 ③接地抵抗計 ④ホイートストンブリッジ ⑤検査方法 ⑥トランジスタの静特性 ⑦整流回路の特性 ⑧論理回路 ⑨デジタル IC カウンタ		
評価方法	①レポートの提出 ②学科目ごとに100点満点とし、60点以上を合格とする。 ③出席率 ④授業態度 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める。		
その他	80%以上の出席必要		

開講年度	2025	開講学期	☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通期
授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実験・実習・実技		
科目名	家電技術		
実務経験 教員			
必須選択	☒ 必須 ☐ 選択 ☐ 必須選択		
授業時間	前期 時間／後期 28 時間 (状況よりオンラインと対面の併用形式)		
対象学年	電子科2年		
到達目標	家電製品の修理技術に必要な電気機器の原理、動作、構造、設置方法について習得し、正しく安全な使用方法を身につける。		
授業内容	各家電の取り扱い知識・動作原理・構造等について理解する ①エアコン ②空気清浄機、除湿器、加湿器 ③扇風機、換気扇 ④冷蔵庫 ⑤電子ジャー ⑥電子レンジ ⑦IH クッキングヒーター ⑧洗濯機・乾燥機 ⑨掃除機 ⑩照明器具 ⑪太陽光発電システム ⑫スマートハウス		
評価方法	①学期末の定期試験 ②学科目ごとに 100 点満点とし、60 点以上を合格とする。 ③出席率 ④授業態度 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める。		
その他	80%以上の出席必要		

開講年度	2025	開講学期	☒ 前期 ☒ 後期 ☐ 通期
授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実験・実習・実技		
科目名	キャリア教育		
実務経験 教員	単元に合った現役の各種社会人（インターシップ・社会人講和など）が担当する。		
必須選択	☒ 必須 ☐ 選択 ☐ 必須選択		
授業時間	前期 16 時間／後期 16 時間 （状況よりオンラインと対面の併用形式）		
対象学年	電子科2年		
到達目標	社会人・職業人として必要とされる知識や技術を身につける。また、研修を含む企業との連携授業を行う		
授業内容	業界人講話 ①業界の現状 ②求められる人材 ③現場作業の実際 ④社会人としてのマナー 企業研修 ①現場の見学 ②作業手順 ③安全教育 ④技術の習得		
評価方法	①学期末の定期試験 ②学科目ごとに 100 点満点とし、60 点以上を合格とする。 ③出席率 ④授業態度 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める。		
その他	80%以上の出席必要		

開講年度	2025	開講学期	☒ 前期	☒ 後期	☐ 通期
授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実験・実習・実技				
科目名	基礎理論				
実務経験 教員					
必須選択	☒ 必須 ☐ 選択 ☐ 必須選択				
授業時間	前期 56 時間／後期 28 時間 (状況よりオンラインと対面の併用形式)				
対象学年	電子科2年				
到達目標	電気に関する基礎的な知識、計算能力と理論と応用を学び、実際に活用する能力を育てる。				
授業内容	①直流回路 電流・電圧・抵抗 オームの法則 抵抗回路 電流の作用 ②磁気 磁力の性質と働き 誘導インダクタンス ③静電気 電解の性質 コンデンサ ④交流回路 基本回路とその性質 直列回路の計算				
評価方法	①学期末の定期試験 ②学科目ごとに100点満点とし、60点以上を合格とする。 ③出席率 ④授業態度 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める。				
その他	80%以上の出席必要				

開講年度	2025	開講学期	☒ 前期 ☐ 後期 ☐ 通期
授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実験・実習・実技		
科目名	電気回路		
実務経験 教員			
必須選択	☒ 必須 ☐ 選択 ☐ 必須選択		
授業時間	前期 56 時間／後期 時間 (状況よりオンラインと対面の併用形式)		
対象学年	電子科2年		
到達目標	電気回路における公式を理解し計算方法について理解する。		
授業内容	①原子の構造 ②半導体の性質 ③トランジスタ回路 ④ダイオード回路 ⑤各種半導体素子 ⑥電界効果トランジスタ ⑦半導体集積回路 ⑧2進数・10進数・16進数 ⑨ベン図・論理回路 ⑩フリップフロップ		
評価方法	①学期末の定期試験 ②学科目ごとに100点満点とし、60点以上を合格とする。 ③出席率 ④授業態度 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める。		
その他	80%以上の出席必要		

開講年度	2025	開講学期	☒ 前期	☐ 後期	☐ 通期
授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実験・実習・実技				
科目名	電気通信の基礎				
実務経験 教員					
必須選択	☒ 必須 ☐ 選択 ☐ 必須選択				
授業時間	前期 28	時間／後期	時間	(状況よりオンラインと対面の併用形式)	
対象学年	電子科2年				
到達目標	電気通信回線についての伝送理論を理解し、デジタル伝送路の伝送技術について理解する。				
授業内容	①電気通信回線の伝送量 ②伝送量の計算 ③電気通信回線の電気特性 ④反射 ⑤漏話 ⑥ひずみ、雑音、反響、SN比 ⑦デジタル変調方式 ⑧多元接続方式・多重アクセス制御方式 ⑨PCM伝送 ⑩光ファイバ通信				
評価方法	①学期末の定期試験 ②学科目ごとに100点満点とし、60点以上を合格とする。 ③出席率 ④授業態度 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める。				
その他	80%以上の出席必要				

開講年度	2025	開講学期	☒ 前期	☐ 後期	☐ 通期
授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実験・実習・実技				
科目名	端末技術				
実務経験 教員					
必須選択	☒ 必須 ☐ 選択 ☐ 必須選択				
授業時間	前期 56	時間／後期	時間	(状況よりオンラインと対面の併用形式)	
対象学年	電子科2年				
到達目標	ブロードバンドネットワークで用いられている各種端末設備・機器の機能について理解する				
授業内容	①ADSL モデム、スプリッタ ②IP 電話システムにおける各種端末 ③LAN の概要 ④LAN の伝送媒体 ⑤イーサネット LAN ⑥無線 LAN ⑦LAN の媒体アクセス制御方式 ⑧集線装置 ⑨LAN 間接続装置 ⑩雷害・電磁障害対策				
評価方法	①学期末の定期試験 ②学科目ごとに 100 点満点とし、60 点以上を合格とする。 ③出席率 ④授業態度 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める。				
その他	80%以上の出席必要				

開講年度	2025	開講学期	☒ 前期	☐ 後期	☐ 通期
授業方法	☒ 講義 ☒ 演習 ☐ 実験・実習・実技				
科目名	接続工事技術				
実務経験 教員					
必須選択	☒ 必須 ☐ 選択 ☐ 必須選択				
授業時間	前期 56	時間／後期	時間	(状況よりオンラインと対面の併用形式)	
対象学年	電子科2年				
到達目標	ブロードバンド回線の工事を行うにあたっての各種配線材料、配線工法、工事試験、施工上の設計・安全管理について学習する。				
授業内容	①メタリックケーブルを用いた LAN の配線工事 ②光ファイバケーブルを用いた LAN の配線工事 ③構内情報配線システム ④情報配線システムのフィールドテスト ⑤コマンド等による LAN の工事試験 ⑥IP ボタン電話装置 ⑦施工管理技術				
評価方法	①学期末の定期試験 ②学科目ごとに 100 点満点とし、60 点以上を合格とする。 ③出席率 ④授業態度 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める。				
その他	80%以上の出席必要				

開講年度	2025	開講学期	☒ 前期	☐ 後期	☐ 通期
授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実験・実習・実技				
科目名	情報セキュリティ				
実務経験 教員					
必須選択	☒ 必須 ☐ 選択 ☐ 必須選択				
授業時間	前期 56	時間／後期	時間	(状況よりオンラインと対面の併用形式)	
対象学年	電子科2年				
到達目標	セキュリティに対する考え方、認証技術、攻撃の種別とその対策、運営管理上の技術について理解する。				
授業内容	①情報システムに対する脅威 ②暗号化技術 ③電子認証、PKI、デジタル署名 ④端末設備とネットワークセキュリティ ⑤情報セキュリティ管理				
評価方法	①学期末の定期試験 ②学科目ごとに100点満点とし、60点以上を合格とする。 ③出席率 ④授業態度 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める。				
その他	80%以上の出席必要				

開講年度	2025	開講学期	☒ 前期	☐ 後期	☐ 通期
授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実験・実習・実技				
科目名	ネットワーク技術				
実務経験 教員					
必須選択	☒ 必須 ☐ 選択 ☐ 必須選択				
授業時間	前期 56	時間／後期	時間	(状況よりオンラインと対面の併用形式)	
対象学年	電子科2年				
到達目標	TCP／IPの基礎やVoIP, アクセス技術等について理解する。				
授業内容	①通信方式と伝送方式 ②デジタル伝送路符号方式 ③IPネットワークの概要 ④IPアドレス ⑤ネットワーク管理コマンド ⑥VoIP ⑦HDLC、ATM ⑧広域イーサネット、IP-VPN ⑨ブロードバンドアクセスの技術				
評価方法	①学期末の定期試験 ②学科目ごとに100点満点とし、60点以上を合格とする。 ③出席率 ④授業態度 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める。				
その他	80%以上の出席必要				

開講年度	2025	開講学期	☒ 前期 ☐ 後期 ☐ 通期
授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実験・実習・実技		
科目名	通信法規		
実務経験 教員			
必須選択	☒ 必須 ☐ 選択 ☐ 必須選択		
授業時間	前期 112 時間／後期 時間 (状況よりオンラインと対面の併用形式)		
対象学年	電子科2年		
到達目標	法の目的、用語の定義など電気通信回線設備に端末設備等を接続するため法規について学習する。		
授業内容	①電気通信事業法 ②工事担任者規則 ③技術基準適合認定等規則 ④端末設備等規則 ⑤有線電気通信法、有線電気通信設備令 ⑥不正アクセス禁止法、電子署名法		
評価方法	①学期末の定期試験 ②学科目ごとに100点満点とし、60点以上を合格とする。 ③出席率 ④授業態度 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める。		
その他	80%以上の出席必要		

開講年度	2025	開講学期	☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通期
授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実験・実習・実技		
科目名	配電理論		
実務経験 教員			
必須選択	☒ 必須 ☐ 選択 ☐ 必須選択		
授業時間	前期	時間／後期	14 時間 (状況よりオンラインと対面の併用形式)
対象学年	電子科2年		
到達目標	屋内幹線や分岐回路の設計について理解し、配線図の読み方、書き方について学習する。		
授業内容	①屋内配線の理論 配線に使用される電気 電気方式・配電方式 屋内配線の対地電圧 電線の太さの決め方 引込線及び引込口配線 開閉器・過電流保護・接地保護・接地 ②配線設計 引込口配線の設計 幹線の設計		
評価方法	①学期末の定期試験 ②学科目ごとに100点満点とし、60点以上を合格とする。 ③出席率 ④授業態度 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める。		
その他	80%以上の出席必要		

開講年度	2025	開講学期	☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通期
授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実験・実習・実技		
科目名	電気機器		
実務経験 教員	20年以上業務で電気工事实務経験のある教員が担当。第1種電気工事士免状を保持している者が担当。		
必須選択	☒ 必須 ☐ 選択 ☐ 必須選択		
授業時間	前期	時間／後期	28 時間 (状況よりオンラインと対面の併用形式)
対象学年	電子科2年		
到達目標	電気機器の原理・構造・機能などを学び、その用途、使い方、特徴などを理解する。		
授業内容	電気機器 ①電気用品一般 ②電線 ③がいしとがいし管 ④テープ類 ⑤電線管類 ⑥線びおよびダクト ⑦配線器具 ⑧白熱灯器具 ⑨蛍光灯器具 ⑩特殊な光源の器具 ⑪家庭用電気器具 ⑫分電盤・配電盤		
評価方法	①学期末の定期試験 ②学科目ごとに100点満点とし、60点以上を合格とする。 ③出席率 ④授業態度 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める。		
その他	80%以上の出席必要		

開講年度	2025	開講学期	☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通期
授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実験・実習・実技		
科目名	配線図		
実務経験 教員			
必須選択	☒ 必須 ☐ 選択 ☐ 必須選択		
授業時間	前期	時間／後期	28 時間 (状況よりオンラインと対面の併用形式)
対象学年	電子科2年		
到達目標	建物の平面図に書く配線図、電気の図記号について学習する		
授業内容	部品・機器の用途と図記号について ①スイッチ ②コンセント ③開閉器・遮断器 ④照明器具 ⑤機器・計器 ⑥配線・ケーブル・電線管 ⑦その他		
評価方法	①学期末の定期試験 ②学科目ごとに100点満点とし、60点以上を合格とする。 ③出席率 ④授業態度 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める。		
その他	80%以上の出席必要		

開講年度	2025	開講学期	☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通期
授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実験・実習・実技		
科目名	電気工事实習		
実務経験 教員	20年以上業務で電気工事实務経験のある教員が担当。第1種電気工事士免状を保持している者が担当。		
必須選択	☒ 必須 ☐ 選択 ☐ 必須選択		
授業時間	前期	時間／後期	56 時間 (状況よりオンラインと対面の併用形式)
対象学年	電子科2年		
到達目標	基本的な電気工事回路を理解し、確実に作成を行う。		
授業内容	単位作業 ①コンセント回路 ②電灯・スイッチ回路 ③電灯・コンセント回路 ④パイロットランプ回路 ⑤3路スイッチ回路 ⑥4路スイッチ回路 ⑦自動点滅器 ⑧タイムスイッチ 等を使用した複合回路の作製		
評価方法	①課題の作製 ②学科目ごとに100点満点とし、60点以上を合格とする。 ③出席率 ④授業態度 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める。		
その他	80%以上の出席必要		

開講年度	2025	開講学期	☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通期
授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実験・実習・実技		
科目名	基本実習		
実務経験 教員	20年以上業務で電気工事実務経験のある教員が担当。第1種電気工事士免状を保持している者が担当。		
必須選択	☒ 必須 ☐ 選択 ☐ 必須選択		
授業時間	前期 時間／後期 56 時間 (状況よりオンラインと対面の併用形式)		
対象学年	電子科2年		
到達目標	国家試験電気工事士試験公表問題の回路を理解し、確実に作成を行う。		
授業内容	第二種電気工事士技能試験公表問題 製作手順の説明・製作 第一種電気工事士技能試験公表問題 製作手順の説明・製作		
評価方法	①課題の作製 ②学科目ごとに100点満点とし、60点以上を合格とする。 ③出席率 ④授業態度 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める。		
その他	80%以上の出席必要		

開講年度	2025	開講学期	☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通期
授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実験・実習・実技		
科目名	応用実習		
実務経験 教員	20年以上業務で電気工事实務経験のある教員が担当。第1種電気工事士免状を保持している者が担当。		
必須選択	☒ 必須 ☐ 選択 ☐ 必須選択		
授業時間	前期	時間／後期	56 時間 (状況よりオンラインと対面の併用形式)
対象学年	電子科2年		
到達目標	基本的な技術を身に着け、電気回路の配線や電気機器の作成を行う。		
授業内容	電気回路の作成 電気・電子部品 はんだ付け 電気配線・取付 電動工具の使い方 ネジや付随する部品 組み立て作業 を使用した複合回路の作製		
評価方法	①課題の作製 ②学科目ごとに100点満点とし、60点以上を合格とする。 ③出席率 ④授業態度 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める。		
その他	80%以上の出席必要		

開講年度	2025	開講学期	☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通期
授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実験・実習・実技		
科目名	電気実習		
実務経験 教員	20年以上業務で電気工事実務経験のある教員が担当。第1種電気工事士免状を保持している者が担当。		
必須選択	☒ 必須 ☐ 選択 ☐ 必須選択		
授業時間	前期	時間／後期	56 時間 (状況よりオンラインと対面の併用形式)
対象学年	電子科2年		
到達目標	電気製図についての技術・知識を身に着ける。電気設備の配線方法や製図の基礎について学習する		
授業内容	電気回路図の作製 ①屋内配線図(平屋) ②屋内配線図(2階建て) ③機械図面の読み方・描き方		
評価方法	①課題の作製 ②学科目ごとに100点満点とし、60点以上を合格とする。 ③出席率 ④授業態度 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める。		
その他	80%以上の出席必要		

開講年度	2025	開講学期	☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通期
授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実験・実習・実技		
科目名	測定実習		
実務経験 教員	20年以上業務で電気工事实務経験のある教員が担当。第1種電気工事士免状を保持している者が担当。		
必須選択	☒ 必須 ☐ 選択 ☐ 必須選択		
授業時間	前期	時間／後期	56 時間 (状況よりオンラインと対面の併用形式)
対象学年	電子科2年		
到達目標	電気に関する実験・測定器・各種機器について理解を深め、取り扱い方法を学ぶことを目的とする。		
授業内容	各種計器による測定・使用方法・レポート作成 ①照度計 ②絶縁抵抗計 ③接地抵抗計 ④ホイートストンブリッジ ⑤検査方法 ⑥トランジスタの静特性 ⑦整流回路の特性 ⑧論理回路 ⑨デジタル IC カウンタ		
評価方法	①レポートの提出 ②学科目ごとに100点満点とし、60点以上を合格とする。 ③出席率 ④授業態度 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める。		
その他	80%以上の出席必要		

開講年度	2025	開講学期	☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通期
授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実験・実習・実技		
科目名	家電技術		
実務経験 教員			
必須選択	☒ 必須 ☐ 選択 ☐ 必須選択		
授業時間	前期 時間／後期 28 時間 (状況よりオンラインと対面の併用形式)		
対象学年	電子科2年		
到達目標	家電製品の修理技術に必要な電気機器の原理、動作、構造、設置方法について習得し、正しく安全な使用方法を身につける。		
授業内容	各家電の取り扱い知識・動作原理・構造等について理解する ①エアコン ②空気清浄機、除湿器、加湿器 ③扇風機、換気扇 ④冷蔵庫 ⑤電子ジャー ⑥電子レンジ ⑦IH クッキングヒーター ⑧洗濯機・乾燥機 ⑨掃除機 ⑩照明器具 ⑪太陽光発電システム ⑫スマートハウス		
評価方法	①学期末の定期試験 ②学科目ごとに 100 点満点とし、60 点以上を合格とする。 ③出席率 ④授業態度 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める。		
その他	80%以上の出席必要		

開講年度	2025	開講学期	☒ 前期	☒ 後期	☐ 通期
授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実験・実習・実技				
科目名	キャリア教育				
実務経験 教員	単元に合った現役の各種社会人（インターシップ・社会人講和など）が担当する。				
必須選択	☒ 必須 ☐ 選択 ☐ 必須選択				
授業時間	前期 16 時間／後期 16 時間 （状況よりオンラインと対面の併用形式）				
対象学年	電子科 2 年				
到達目標	社会人・職業人として必要とされる知識や技術を身につける。また、研修を含む企業との連携授業を行う				
授業内容	業界人講話 ①業界の現状 ②求められる人材 ③現場作業の実際 ④社会人としてのマナー 企業研修 ①現場の見学 ②作業手順 ③安全教育 ④技術の習得				
評価方法	①学期末の定期試験 ②学科目ごとに 100 点満点とし、60 点以上を合格とする。 ③出席率 ④授業態度 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める。				
その他	80%以上の出席必要				

開講年度	2025	開講学期	☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通期
授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実験・実習・実技		
科目名	電気工事实習		
実務経験 教員	20年以上業務で電気工事实務経験のある教員が担当。第1種電気工事士免状を保持している者が担当。		
必須選択	☒ 必須 ☐ 選択 ☐ 必須選択		
授業時間	前期	時間／後期	56 時間 (状況よりオンラインと対面の併用形式)
対象学年	電子科2年		
到達目標	基本的な技術を身に着け、電気回路の配線や電気機器の作成を行う。		
授業内容	電気回路の作成 電気・電子部品 はんだ付け 電気配線・取付 電動工具の使い方 ネジや付随する部品 組み立て作業 を使用した複合回路の作製		
評価方法	①課題の作製 ②学科目ごとに100点満点とし、60点以上を合格とする。 ③出席率 ④授業態度 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める。		
その他	80%以上の出席必要		

開講年度	2025	開講学期	☒ 前期	☒ 後期	☐ 通期
授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実験・実習・実技				
科目名	応用実習				
実務経験 教員	20年以上業務で電気工事实務経験のある教員が担当。第1種電気工事士免状を保持している者が担当。				
必須選択	☒ 必須 ☐ 選択 ☐ 必須選択				
授業時間	前期 56 時間／後期 56 時間 (状況よりオンラインと対面の併用形式)				
対象学年	電子科2年				
到達目標	実践的な演習を行い、即戦力となる知識と技術を習得させることを目的とする。				
授業内容	①ボードでの製作 (1) 基本回路 (2) 3路スイッチ (3) 4路スイッチ (4) パイロットランプ (5) 単相三線式 (6) パイロットランプ (7) 自動点滅器 (8) タイムスイッチ (9) 自動点滅器とタイムスイッチ (10) リモコンリレー ②実習棟での製作 模擬家屋を使用した実践的な配線 チーム製作				
評価方法	①課題の作製 ②学科目ごとに100点満点とし、60点以上を合格とする。 ③出席率 ④授業態度 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める。				
その他	80%以上の出席必要				

開講年度	2025	開講学期	☒ 前期 ☐ 後期 ☐ 通期
授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実験・実習・実技		
科目名	ハードウェア概論		
実務経験 教員			
必須選択	☒ 必須 ☐ 選択 ☐ 必須選択		
授業時間	前期 28 時間／後期 時間 (状況よりオンラインと対面の併用形式)		
対象学年	電子科2年		
到達目標	CompTIA A+の教材を応用し、ハードウェアの基礎知識を身につける。 CompTIA A+の取得又は同等の知識を習得することを目標とする。		
授業内容	PC 用メモリ（システムメモリ）についての解説 ・メモリの種類／デュアルチャンネル／インストール方法 マストストレージデバイスについての解説 ・HDD/SSD、光学ドライブ各種についての解説 ・リムーバブルドライブの解説 ・RAID の解説と構成 ネットワークの構成 ・ネットワークの基礎知識 ・SOHO ネットワークの構成 ・ネットワーク機材の解説 スイッチ（インテリジェント HUB）/インターネットルータ/無線アクセスポイント ・有線 LAN ケーブルの仕様 ・無線 LAN の仕様		
評価方法	①実施單元ごとの提出課題 ②授業の終盤に実施する制作課題（グループワーク 0r 個人） ③授業態度 ④出席状況 課題は 6 割程度、ペーパーを行う場合は 4 割で計算 合計点が 6 割に満たない場合は欠点 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める		
その他	80%以上の出席必要		

開講年度	2025	開講学期	☒ 前期	☒ 後期	☐ 通期
授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実験・実習・実技				
科目名	アルゴリズム				
実務経験 教員					
必須選択	☒ 必須 ☐ 選択 ☐ 必須選択				
授業時間	前期 28 時間／後期 28 時間 (状況よりオンラインと対面の併用形式)				
対象学年	電子科2年				
到達目標	プログラム作成に必要な、処理手続きの流れについて理解を深め、フローチャートを用いてアルゴリズムを記述する力を身につける。				
授業内容	1. アルゴリズムについて 2. 間違いのないプログラムを作るには 3. フローチャートの基本図記号 4. フローチャートによるアルゴリズム表現の基本 5. 入出力、計算を含む「順次」・「選択」の基本演習 6. 「反復」記述の例題と演習 7. 配列の活用 8. 配列を活用する処理の演習 9. サブルーチンの活用 10. 2重ループ処理の活用と演習				
評価方法	①実施單元ごとの提出課題 ②授業の終盤に実施する制作課題（グループワーク or 個人） ③授業態度 ④出席状況 課題は6割程度、ペーパーを行う場合は4割で計算 合計点が6割に満たない場合は欠点 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める				
その他	80%以上の出席必要				

開講年度	2025	開講学期	☒ 前期	☒ 後期	☐ 通期
授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実験・実習・実技				
科目名	IT 試験対策				
実務経験 教員					
必須選択	☒ 必須 ☐ 選択 ☐ 必須選択				
授業時間	前期 112 時間	後期 112 時間	(状況よりオンラインと対面の併用形式)		
対象学年	電子科 2 年				
到達目標	(独) 情報処理推進機構 (IPA)が実施している国家資格である情報処理技術者試験の取得を目標とする。				
授業内容	①基礎理論 ②コンピュータシステム ③技術要素 ④開発技術 ⑤プロジェクトマネジメント ⑥サービスマネジメント ⑦システム戦略 ⑧経営戦略 ⑨企業と法務 基本情報技術者免除対象講座受講計画にて IPA に申請している計画に基づいて実施する。				
評価方法	①実施單元ごとの提出課題 ②授業の終盤に実施する制作課題 (グループワーク 0r 個人) ③授業態度 ④出席状況 課題は 6 割程度、ペーパーを行う場合は 4 割で計算 合計点が 6 割に満たない場合は欠点 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める				
その他	80%以上の出席必要				

開講年度	2025	開講学期	☒ 前期 ☐ 後期 ☐ 通期
授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実験・実習・実技		
科目名	. N E T		
実務経験 教員			
必須選択	☒ 必須 ☐ 選択 ☐ 必須選択		
授業時間	前期 28 時間／後期 時間 (状況よりオンラインと対面の併用形式)		
対象学年	電子科2年		
到達目標	一般的に利用される Windows 搭載の P C で動作するシステムの開発方法の習得。基礎的なフォームコントロールの利用方法と各イベントについて学習する。		
授業内容	システム開発業務経験のある教員により、プログラム言語の文法や仕様のみではなく、開発現場でのコーディング規則などを交えての教育を行う。 ①配列とコレクション ②サブプロシージャ及びファンクション ③よく利用するメソッドの理解 ④イベントとプロシージャについて ⑤構造体とクラス		
評価方法	①実施单元ごとの提出課題 ②授業の終盤に実施する制作課題（グループワーク 0r 個人） ③授業態度 ④出席状況 課題は 6 割程度、ペーパーを行う場合は 4 割で計算 合計点が 6 割に満たない場合は欠点 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める		
その他	80%以上の出席必要		

開講年度	2025	開講学期	☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通期
授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実験・実習・実技		
科目名	アプリ開発		
実務経験 教員			
必須選択	☒ 必須 ☐ 選択 ☐ 必須選択		
授業時間	前期	時間／後期	28 時間 (状況よりオンラインと対面の併用形式)
対象学年	電子科2年		
到達目標	一般的に利用される Windows 搭載のPCで動作するシステムの開発方法の習得。基礎的なフォームコントロールの利用方法と各イベントについて学習する。		
授業内容	システム開発業務経験のある教員により、プログラム言語の文法や仕様のみではなく、開発現場でのコーディング規則などを交えての教育を行う。 ①Visual Studio2017 の利用方法 ②Windows プログラミングの構築の基礎 ③フォームコントロールの使い方 ④イベントドリブンについて		
評価方法	①実施单元ごとの提出課題 ②授業の終盤に実施する制作課題（グループワーク 0r 個人） ③授業態度 ④出席状況 課題は 6 割程度、ペーパーを行う場合は 4 割で計算 合計点が 6 割に満たない場合は欠点 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める		
その他	80%以上の出席必要		

開講年度	2025	開講学期	☒ 前期	☒ 後期	☐ 通期
授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実験・実習・実技				
科目名	DB				
実務経験 教員					
必須選択	☒ 必須 ☐ 選択 ☐ 必須選択				
授業時間	前期 28 時間／後期 28 時間 (状況よりオンラインと対面の併用形式)				
対象学年	電子科2年				
到達目標	データベースとは何かを知り、データベースの種類や用途などについて学ぶ。SQL を使った基本的なデータ抽出法を学習。基本的な DML 文、条件指定でのデータ抽出や挿入、削除、更新などが出来るようになる。				
授業内容	①データベースとは ②データベースの種類 ③RDBMS の操作について ④複雑な検索条件を指定したデータの抽出手法 ⑤並べ替えやグループ化				
評価方法	①学期末の定期試験 ②学科目ごとに 100 点満点とし、60 点以上を合格とする。 ③出席率 ④授業態度 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める。				
その他	80%以上の出席必要				

開講年度	2025	開講学期	☒ 前期	☒ 後期	☐ 通期
授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実験・実習・実技				
科目名	WEB				
実務経験 教員					
必須選択	☒ 必須 ☐ 選択 ☐ 必須選択				
授業時間	前期 56 時間／後期 56 時間 (状況よりオンラインと対面の併用形式)				
対象学年	電子科2年				
到達目標	Web サイトとはどのような仕組みによって作成、構成されているのかを理解し、HTML を使った画面制作や CSS を使ったレイアウト構築手法について学習する。静的な Web サイトの作成能力を身につけさせることを目標とする。				
授業内容	①HTML 基本タグ(H, P, DIV, SPAN, BR, TABLE)などを使った制作手法を理解 ②CSS デザインを理解(id/class 指定) ※埋め込み型と外部ファイル形式 ③カラムレイアウトの制作手法を理解 ※DIV タグによる2カラムレイアウトなど				
評価方法	①学期末の定期試験 ②学科目ごとに 100 点満点とし、60 点以上を合格とする。 ③出席率 ④授業態度 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める。				
その他	80%以上の出席必要				

開講年度	2025	開講学期	☒ 前期	☒ 後期	☐ 通期
授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実験・実習・実技				
科目名	J A V A				
実務経験 教員					
必須選択	☒ 必須 ☐ 選択 ☐ 必須選択				
授業時間	前期 56 時間／後期 56 時間 (状況よりオンラインと対面の併用形式)				
対象学年	電子科2年				
到達目標	C 言語実習と並行し基本入出力、制御文などを身に付させる。 これらを通して、Java プログラミングの基礎及びアルゴリズムの基礎を理解し、独力で初級レベルアプリケーションが作成可能になる。				
授業内容	①Javascript とは ②イベントの種類 ③変数とオブジェクト ④DOM についての理解 ⑤ミニゲ Java を採用したシステム開発業務経験のある教員から、開発業務において注意しなければいけないコーディング規則などを踏まえて以下項目の実施。 ①クラスとは何か。クラス（外部含む）やメソッドの作成方法 ②import 文 パッケージの利用（Scanner, Random, DecimalFormat 等） ※10 から 100 ステップ前後のプログラム演習問題を 100 本程度演習 基本的なアルゴリズムを習得させる。 ③ファイル操作と例外処理 ④成果物として脳トレプログラム（ランダム、時間計測、正負判定など）や CSV ファイルへの入出力を行うプログラムの開発 ※不正解問題を保持し、再度解答させるなど ※ファイル検索機能を付与などームの作成による技術の確立				
評価方法	①学期末の定期試験 ②学科目ごとに 100 点満点とし、60 点以上を合格とする。 ③出席率 ④授業態度 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める。				
その他	80%以上の出席必要				

開講年度	2025	開講学期	☒ 前期	☐ 後期	☐ 通期
授業方法	☒ 講義 ☒ 演習 ☐ 実験・実習・実技				
科目名	接続工事技術				
実務経験 教員					
必須選択	☒ 必須 ☐ 選択 ☐ 必須選択				
授業時間	前期 56	時間／後期	時間	(状況よりオンラインと対面の併用形式)	
対象学年	電子科2年				
到達目標	ブロードバンド回線の工事を行うにあたっての各種配線材料、配線工法、工事試験、施工上の設計・安全管理について学習する。				
授業内容	①メタリックケーブルを用いた LAN の配線工事 ②光ファイバケーブルを用いた LAN の配線工事 ③構内情報配線システム ④情報配線システムのフィールドテスト ⑤コマンド等による LAN の工事試験 ⑥IP ボタン電話装置 ⑦施工管理技術				
評価方法	①学期末の定期試験 ②学科目ごとに 100 点満点とし、60 点以上を合格とする。 ③出席率 ④授業態度 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める。				
その他	80%以上の出席必要				

開講年度	2025	開講学期	☒ 前期 ☐ 後期 ☐ 通期
授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実験・実習・実技		
科目名	電気数学		
実務経験 教員			
必須選択	☒ 必須 ☐ 選択 ☐ 必須選択		
授業時間	前期 28 時間／後期 時間 (状況よりオンラインと対面の併用形式)		
対象学年	電子科2年		
到達目標	電気回路を理解する上で必要となる数学の基礎を理解し、計算力・法則などを身につける。		
授業内容	電気数学 ① 数とその計算 ② 文字式とその計算 ③ 方程式と不等式 ④ 関数とグラフ ⑤ 三角関数 ⑥ ベクトル		
評価方法	①学期末の定期試験 ②学科目ごとに100点満点とし、60点以上を合格とする。 ③出席率 ④授業態度 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める。		
その他	80%以上の出席必要		

開講年度	2025	開講学期	☒ 前期 ☐ 後期 ☐ 通期
授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実験・実習・実技		
科目名	物理学		
実務経験 教員			
必須選択	☒ 必須 ☐ 選択 ☐ 必須選択		
授業時間	前期 28 時間／後期 時間 (状況よりオンラインと対面の併用形式)		
対象学年	電子科2年		
到達目標	無線通信を行うために必要な電波の性質や電気回路、送受信装置、空中線、測定方法について理解する。		
授業内容	無線工学 ① 電気の基礎 ② 電子回路 ③ 送受信装置 ④ レーダ ⑤ 空中線系 ⑥ 電波の伝搬 ⑦ 電源 ⑧ 測定		
評価方法	①学期末の定期試験 ②学科目ごとに100点満点とし、60点以上を合格とする。 ③出席率 ④授業態度 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める。		
その他	80%以上の出席必要		

